

知識探訪

多民族社会の横顔を読む
協力：日本マレーシア学会 (JAMS)

イスラムと母乳

福島 康博 (東京外国語大学)

ハラール(イスラム教の戒律で許されたもの)・ビジネス先進国とみなされているマレーシア。しかしながら、イスラムの教義に基づいたハラール認証は、ムスリム(イスラム教徒)ではない者にとってはもちろん、ムスリムであっても一般的なイスラム理解よりも専門的な内容を含んでいる。そのため、この国でもたびたびトラブルが発生する。

報道によると、8月にマラッカの高級ホテルに宿泊した華人女性が、母乳をレストランの冷蔵庫で凍らせるよう依頼したところ、スタッフから「母乳はノン・ハラール」という理由で拒否された。後日、彼女が交流サイト(SNS)で情報を拡散したところ、ホテル側がスタッフの理解不足と対応の不適切さを謝罪した。

飲食物のハラール認証基準である MS1500:2009 は、加工された飲食物が対象となる。収穫したての穀物や野菜・果物、汲みたての湧き水、動物・魚類などは、イヌやブタなどイスラム教の教義で有害とされる一部のものを除けばハラールであり、認証取得は不要とされる。ただ、これらの加工・調理で人の手が加わる時に、禁じられた物質の接触や混入の可能性が生じるため、ハラール認証が行われる。

母乳については、実は MS1500:2009 に規定がある。najs(ナジュス)と呼ばれる不浄でハラール認証が取得できない物品を規定する 2-4-1-d とその註によれば、「人間や動物の開口部から排出される液体と固体」はナジュスである一方、「イヌ・ブタ以外の動物、および人間の乳・精子・卵子はナジュスではない」と記されている。すなわち、人体から排出される糞尿や血液はハラールではないが、母乳は牛乳やヤギ、ラクダのミルクと同様にハラールとなる。なお、母乳がムスリムのものであるか否かの規定はない。もとよりマレーシアのハラール認証では、食品産業に従事する者の民族や信仰は、と畜などを除き原則として不問である。



マレーシアで販売されている粉ミルク。ハラール認証を取得している。(撮影筆者)

今回のケースに戻ると、華人女性は母乳がハラールであると正しく理解していた一方、ホテルの従業員は、母乳はノン・ハラールであり、ハラール食品用の冷蔵庫での保管は禁じられると思い込んでいたようだ。ホテル側によれば、今後

は従業員に対して適切な従業員教育を行うとしているが、MS1500:2009の3-1-2は、ハラール認証を取得した企業や事業所は、従業員に対してハラールに関する教育を行うことが義務づけている。

母乳については、イスラム教の教義に興味深い規定がある。乳兄弟・姉妹という考え方で、コーランの第4章23節によれば、同じ乳母に育てられた(同じ母乳を飲んで育った)男女は血縁者と同等とみなされ、結婚が禁じられる(他方、相続権は発生しない)。そこでこの規定を悪用し、恋愛関係にある男女に横恋慕した者が2人に気付かれぬよう食事に母乳を混ぜ、後でからくりを明らかにすることで結婚を邪魔したり、女性による単身での海外旅行が禁じられている国では、女性旅行者と男性ツアー・コンダクターが同じ母乳を飲むことで乳兄弟・姉妹となって海外旅行を行う、といった事案が発生することがある。

このように、イスラムにおける母乳は、子育てにとどまらず家族関係や社会のあり方を規定する存在である。あるいは、母乳を通じて個人と家族、社会が繋がっているといえよう。

< 筆者紹介 >

1973年生まれ。東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所フェローおよび立教大学アジア地域研究所特任研究員。マレーシア国際イスラム大学大学院MBA課程留学ののち、桜美林大学大学院国際学研究科博士後期課程単位取得満期退学。博士(学術)。共編著に『東南アジアのイスラーム』(東京外国語大学出版会、2012年)など。